

私の一冊

社会福祉学科 佐々木 将芳 先生

東田直樹著 『自閉症の僕が飛びはねる理由』

小鹿図書館 378/H 55/1

「はじめに」の最後に以下のような一文があります。

「自閉の世界は、みんなから見れば謎だらけです。少しだけ、僕の言葉に耳を傾けてくださいませんか。

そして、僕たちの世界を旅してください。」

皆さんは、障害をもつ人(子ども)たちのことをどのように理解されているでしょうか。それはきっと皆さんそれぞれがどのような環境で過ごしてきたかによって、大きく異なるのかも知れません。自分の身近に配慮が必要な人がいる場合、そういった出会いや環境では偶然なかった場合もあるでしょう。

しかし、どちらの環境であったとしても、私たちは障害をもつ人たちを本当に理解することは難しいと思います。当たり前のことですが、「私」と「あなた」は違う存在ですから、そもそも他者を本当に理解することは不可能に近いのです。さらに、何かしらの障害をもつ人たちについては、その内容や特性から、より一層その人たちの思いや感じ方を知ることは難しいと感じてしまうことが多くあります。

ですが、本学の学生の皆さんはこれからの人生において、そのような障害をもつ人たちと関わる可能性が多くあります。そのとき、自分がどのように障害をもつ人たちの姿を理解していけばよいのかについての手がかりを本書は教えてくれます。

本書の著者である東田直樹さんは重度の自閉症と診断された、障害当事者でもあり何冊もの絵本を出版している絵本作家でもあります。その東田さんがひとつひとつの問い(質問)に答える形式で本書は構成されています。私たちが知らなかった、感じたことがあまりない自閉症の人たちの世界を伝えてくれる貴重な本だと思います。

最後に、もう一文紹介して、終わりにします。

「僕たちだって、みんなと同じ思いを持っています。上手く話せない分、みんなよりもっと繊細かも知れません。

思い通りにならない体、伝えられない気持ちを抱え、いつも僕らはぎりぎりのところで生きているのです」(第5章 57 どうしてパニックになるのですか? より)